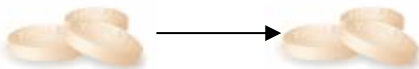




トラスツズマブ、エスワンとシスプラチン(外来)治療を受ける方へ






腫瘍は、正常細胞に比べて分裂増殖が盛んです。
 トラスツズマブ、エスワンおよびシスプラチンは、
 分裂増殖が盛んな細胞に作用します。
 正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞は、薬の影響を受けやすく
 副作用として現れてきます。
 以下に、トラスツズマブ、エスワンとおよびシスプラチンによる治療の
 副作用をご説明しますが、
 これらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。

薬の名前	1～14日目		15～21日目
エスワン (成分名;テガフル・ギメラ シル・オテラシル)			お休み
薬の名前	1日目	2～21日目	
ハーセプチン (成分名;トラスツズマブ)		お休み	
薬の名前	1日目	2～21日目	
シスプラチン (成分名;シスプラチン)		お休み	

*スケジュールは検査結果や患者様の体調で変わることがあります。

*上の表の21日を1回の治療として繰り返し行います。

一日のスケジュール

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
	30分	生理食塩水100ml グラニセトロン デキサート	グラニセトロン、デキサート; 吐き気を抑える。
	初回90分 2回目～ 45分	生理食塩水250ml ハーセプチン	ハーセプチン; 腫瘍の細胞分裂を抑える。
	120分	①生理食塩水500ml シスプラチン	シスプラチン; 腫瘍の細胞分裂を抑える。
	①の 側管から	フロセミド	フロセミド;排尿しやすくしま す。
	90分	生理食塩水500ml	生理食塩水; 水分の確保、腎臓の負担を和 らげます。
	90分	生理食塩水500ml	生理食塩水; 水分の確保、腎臓の負担を和 らげます。

◎副作用について

●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。

点滴治療の場合には点滴終了後3日程度とされています

症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります。

●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じる場合があります。多くは点滴後3日間程度とされています。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいとされています。

●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなります。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛みなどがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。歯茎からの出血や鼻血の症状に注意が必要です。

●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります。

●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

●味覚障害

味覚障害は、甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の5つの基本味の変化に対する症状であり、具体的には何を食べても味が薄く感じる(味覚減退)や味を全く感じない(味覚消失)などを生じる場合があります。

●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせください。点滴の種類によっては点滴する腕を温めて点滴をします。

●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

●脱毛

この治療は脱毛の頻度は比較的低いと言われていています。抜け毛が気になったり、髪の毛が細くなることがあります。個人差があるため、多く抜けてしまう場合もあります。おおよそ薬の投与2～3週間後から多く起こります。髪は、抗がん剤の治療が終われば3～6ヶ月後には再び生えてくる場合が多いです。

●皮疹

首筋や手、足、背中などの皮膚が赤くなったり、かゆくなったりすることがあります。刺激の少ない木綿の肌着を着用するなど、皮膚への刺激を避けましょう。治療の後、数日以内に全身にかゆみや痛みを伴う場合は相談してください。

●目障害

お薬が涙液中に移行し、細胞分裂の活発な角膜上皮細胞や角膜上皮幹細胞を障害することにより、角膜障害が発症すると考えられています。涙が止まらない」「目がかすむ」「視力が落ちた」などの症状があった場合には相談しましょう。

●腎障害

この治療では腎臓の機能が低下することがあります。水分摂取を行うことで予防につながるといわれています。吐き気がない場合には点滴初日から3日間1～1.5Lの水分摂取をしましょう。(吐き気がある場合には看護師や薬剤師に相談しましょう)尿の出が悪い場合には相談しましょう。

●トラスツズマブによる心毒性

心臓に対する副作用があり、心臓がドキドキしたり、息苦しくなったり、むくみが出る場合があります。心臓がドキドキしたり、息苦しくなったりしたときは、医療スタッフに連絡しましょう。心臓機能の低下(100人に2～4人くらいといわれています)

●インフュージョンリアクション

発熱、悪寒、吐き気、頭痛、疼痛、痒み、発疹、咳、血圧上昇、気分不快が起こる場合があります。ほとんどの場合は点滴をしている時間帯におこりますので点滴中に気分不快等あれば看護師に相談しましょう。特に初回の点滴時に頻度が多く、発生した場合には点滴速度を遅くしたりして対処します。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または看護師にご相談ください。